

科目名	英語学概論Ⅰ			担当教員	大石 晴美	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1EEL101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。英語学を包括的に理解し、その中から、英語の音のしくみ、文法、歴史的変遷および国際英語としての英語の実態について焦点をあて、中学校、高等学校の学習指導要領に準じ、発音指導、コミュニケーションの指導、教材研究のための基本的知識を身につけることが目標である。テーマ：英語の音、文法、歴史、国際英語					
授業の概要	英語学とは何かを概観し、英語の音のしくみ、英語の文法、英語の歴史的変遷、国際共通語としての英語について扱う。英語の音の仕組みでは、英語の文法では英文法の理論と学校英文法について解説し、日本語と英語を比較する。また、英語の歴史的変遷から現在の国際共通語になった英語について概説する。英語学の知識を中学校高等学校での指導に結びつける。					

授業計画	
第1回	講義概要説明
第2回	英語学とは？・英語学の各分野の紹介
第3回	英語の音のしくみ1 母音と母音体系
第4回	英語の音のしくみ2 子音と子音体系
第5回	英語の音のしくみ3 形態音素、音節とモーラ
第6回	英語の音のしくみ4 アクセント、イントネーション、リズム
第7回	英語の文法1 英文法の理論
第8回	英語の文法2 学校英文法
第9回	言語と脳1 文法処理と脳のしくみ
第10回	言語と脳2 4技能と脳のしくみ
第11回	英語の歴史的変遷1 英語の成立
第12回	英語の歴史的変遷2 英語が国際共通語になる歴史的背景
第13回	国際共通語としての英語1 国際英語論と英語帝国主義論
第14回	国際共通語としての英語2 国際英語論と英語教育
第15回	まとめ

事前学修	2時間	授業で取り扱う内容を読む。
事後学修	2時間	授業の復習をする。用語の概念を修得する。
フィードバックの方法	毎時間のリアクションペーパーにコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	まとめのテスト
レポート	30%	3段階
上記以外の試験・平常点評価	20%	授業参加度
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
First Steps in English Linguistics	影山太郎	授業中に指示する	くろしお出版	授業中に指示する
参考資料				

科目名	英語学概論Ⅱ			担当教員	大澤 聡子	
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED1EEL402	
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	・英語の文・語・意味についてその構造と規則を理解し、英語の言語学的特徴を説明できる。 ・言語データから規則性や共通性を発見し、論理的に分析することができる。 ・規則（＝文法）の本質的な機能を理解し、言語現象のメカニズムを説明できる。 ・英語学の知識を活かし、英語運用能力に応用できる。					
授業の概要	ことばの単位である文・語・意味の順に、統語論・形態論・意味論の領域を扱う。多くの言語データに基づいて、英語を構成する構成素がどのような仕組みで構造を形成し、文・語・意味となるのかを考えていく。授業では多くの例を分析していくが、その過程で学生の皆さんには積極的に言語分析に参加してもらうため、練習問題を行う。また、英語学の知識が英語使用場面に役立つことを機能的構文論から観察する。最後に、言語運用にかかわる分野として語用論を扱い、ことばによるコミュニケーションについて考える。 【デジタル技術利用：該当番号①】					

授業計画	
第1回	英語学とは 生成文法がめざすもの
第2回	統語論（1）文の構造 p.9 句の構造 p.13
第3回	統語論（2） Xバー理論 p.16
第4回	統語論（3）節の構造 p. 27 複文の構造 p. 32
第5回	統語論（4） 抽象的な構造 p. 35 文法操作の性質 p. 39
第6回	統語論（5） 島の制約 p. 49 助動詞の振る舞い p.55
第7回	機能的構文論（1） 情報構造とは 新情報・旧情報
第8回	機能的構文論（2） 情報構造と移動現象
第9回	機能的構文論（3） 情報構造と構文
第10回	形態論（1） 語の構成要素 p. 65 派生 p. 69
第11回	形態論（2） 派生 p. 69 複合 p. 76
第12回	意味論（1） 意味の成分分析 p. 119 動詞の成分分析 p. 122
第13回	意味論（2） 意味役割 p. 127 照応形の解釈 p. 134
第14回	語用論 協調性の原理 ポライトネス
第15回	授業全体の総括

事前学修	2時間	授業で扱う範囲を読み、理解できないところを抜き出しておく。専門用語は英語学や言語学の用語辞典で調べておくといよい。
事後学修	2時間	配布資料やテキストを読んで復習し、授業で扱った言語現象や理論を自分の言葉で説明してみる。練習問題をもう一度解いてみる。例文を自分で作る。
フィードバックの方法	練習問題で理解度を確認しながら、解説を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
--------	-------	-------

レポート	100%	言語現象を言語理論に基づいて説明できる。専門用語が説明できる。
定期試験	0%	定期試験は実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ファンダメンタル英語学	中島平三	ひつじ書房	9784894765757	英語学の入門書で、英語学研究の基礎となる基礎知識、思考法、研究方法が学べる。
参考資料	中野 弘三・服部義弘・小野隆啓・西原哲雄（監修）（2015）『最新・英語学言語学用語辞典』開拓社			